

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回産業振興条例検討委員会
開 催 日 時	午前・ 午後 10時00分から 平成29年 8月25日(金) 午前・ 午後 12時00分まで
開 催 場 所	吉川市役所201会議室
出席委員(者)氏名	【産業振興条例検討委員】鈴木 努、近藤 旭、柏瀬 浩史、 太田 久年、関根 俊和、程田 幸秀、田口 政博、広嶋 秀樹、 蓮見 良平 【委員以外の出席者】 中原 恵人(市長)、安室 晴紀(秘書担当)、油川 誠(農政課)
欠席委員(者)氏名	生田 貴之
担当課職員職氏名	市民生活部 副部長 兼 商工課 課長 山崎 守 市民生活部 商工課 課長補佐 鈴木 康雄 商工課 商工観光係長 柴田 守彦 商工課 商工観光係 主任 小島 慎平
会議次第と会議の公開又は非公開の別	○第2回吉川市産業振興条例検討委員会 1. 開会 2. 議題(公開) (1) 事前課題抽出結果について (2) 市内団体ヒアリングの経過報告について (3) 意見交換 3. 閉会
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	1人
会議資料の名称	資料1 次第 資料2 吉川市産業振興条例検討委員会 課題の抽出等 資料3 市内団体での産業振興に関する自由意見ヒアリング結果
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録

会議録確認指定者	近藤 旭、柏瀬 浩史
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<p>○第2回吉川市産業振興条例検討委員会</p> <p>1. 開会 市長挨拶(省略)</p> <p>2. 議題 (1) 事前課題抽出結果について (2) 市内団体ヒアリングの経過報告について</p> <p>議題(1)、(2)について、資料2、資料3に基づき事務局より説明した。</p> <p>(3) 意見交換 各委員の事前課題抽出結果を元に意見交換を行った。</p> <p>事前課題抽出結果について、補足事項等もあると思いますので、各委員からご説明をお願いいたします。</p>
鈴木委員	<p>青年会議所で頂いた意見も含めて提出させて頂いた。吉川市のイメージとして、新しく開発された美南地域が賑わっている反面、旧市街の賑わいが少ない。また、雇用に関しては、外から働きに来ている人が多く、吉川在住の人が少ない印象。</p>
中原市長	<p>他に頂いた意見の中で、消費者が市内の企業の情報を把握できるようにする、地元企業としてもっと市民に知ってもらい、といった情報伝達、情報共有が双方の幸福感に繋がっていくという意見は大事だと感じる。また、競合が少なく一部で独占状態になっていて、活性化のために新規参入を促すという視点も大事だと思う。</p>

事務局	<p>生田委員欠席のため、事務局より生田委員から提出頂いた内容を紹介します。(資料2の生田委員の意見について説明)</p>
中原市長	<p>メイドイン吉川を出してほしい、企業からの情報発信、企業同士の技術をつなげる、連携を強めるという意見が大事ではないかと思う。加えて、既存企業活性化のための大胆なバックアップという視点も貴重である。</p>
近藤委員	<p>テクノポリス青年部会は、自分を含め、草加・越谷・春日部から来ている人がほとんどで、吉川生まれ・吉川在住は1名しかいない。そういった背景での吉川市のイメージとなるが、保育等の福祉に関して人口増に対応できておらず、知名度も低い印象。さくら通りの整備も不十分で観光地としても冴えず、名物のなまずも草加煎餅のような知名度がない等があげられる。また、駅前の開発に関しても近隣の駅のような賑わいがなく、道路についてもテクノポリスへのアクセスは良くない。事業の課題においては、テクノポリス内の企業では雇用についても厳しい状況が続いている。募集すると埼玉北部で地元の雇用が十分でないところから来る例が散見され、地元の人が外を向いている印象がある。また、比較的堅実に事業が進んでいる企業は用地を広げたいのに広げられないという課題がある。</p> <p>吉川市の進むべき道としては、吉川市は調整区域であっても土地は十分にあるため、企業誘致の余地はあると思う。ベッドタウンとして集まった人の雇用を吸収できるとよい。大企業の誘致があってもよい。</p>
中原市長	<p>製造業以外ではどのような業種が増えるとよいだろうか。</p>
近藤委員	<p>金融やサービス業など、商業分野が伸びるとよいと思う。商工の両輪がないと発展は難しいと思う。それに加えて、農業の大規模化・工業化が進んでいくとよい。また、空き家対策と併せて駅周辺でのSO</p>

	<p>HOバンクの推進により、外から人が入って来れるようにするのもよいと思う。また、大学があると人の流れと消費が生まれる。例えば大学や専門学校の吉川美南駅前への誘致も効果的と考える。吉川美南、きよみ野、テクノポリスがつながるとよい。</p> <p>また、近年のインターネットショップの人気等を鑑みると、良いものを安く早く入手できる、というのは消費者の満足感、幸福感につながっていると考える。一方、働く側、生産者としてはワークライフバランスも重要。自身の努力に対して成果が表れるのも幸福感につながると考える。経営者としては、従業員と顧客満足度の向上を起点に、経営者としての幸福、自身の家族の幸福、といった流れが生まれるとよいと考えている。</p>
<p>中原市長</p>	<p>幹線道路については、吉川市内には東西南北いずれも通り抜けられる道路がなく、経済に悪影響があると思う。県道等もあるので市だけでは解決できない課題であるため、長期となってもこれを解決していく姿勢を県や国に示していきたい。</p> <p>工業用地については、美南の東口の開発が終わってからでないとの場所の主張はできない。開発はスピード感をもって進めたい。県の姿勢としては、用地の拡張はやぶさかではない、といった感触であり、買いたい人がいる以上、経済的にはプラスになる。短期的には進められないが、強い意志で進めたい。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>なお、吉川市の知名度について、知名度の上昇は事業にプラスになるだろうか</p>
<p>近藤委員</p>	<p>事業には不要。立地ではなく内容で評価されたい。人口を増やすという面では有効だと思う。</p>
<p>中原市長</p>	<p>人材を集める面ではどうか。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>有利になるかもしれない。</p>

中原市長	<p>SOHOバンクのニーズはあるだろうか？空きビルを市が借り上げて提供するなど。ニーズがあるなら空き家対策を含めて進めることも考えられる。</p>
近藤委員	<p>具体的なニーズとして聞いたことはない。ベンチャー企業や起業したい人を集めるという面では有効と考える。そのためには市の知名度が必要かもしれない。</p>
広嶋委員	<p>先に建物を準備するというのはリスクを伴う。募集と並行して整備する形になるのではないだろうか。重要なのは、そこに入りたいという人が出てくるような支援、商売ができる環境を整えることと考える。もし、本当にニーズがあれば、駅前の空きビルに既に企業が入っているはずである。</p>
中原市長	<p>現状、知名度や仕事のしやすさではTX沿線に軍配が上がるかもしれない。魅力的な金利制度など、事業者を引き付ける何かがないといけな。一方、ワークライフバランスの適正化について吉川市で推進していくことは、吉川市で働くことの魅力になるかもしれない。</p>
柏瀬委員	<p>順調に発展する企業としたら事業所を拡張したいという思いは強いが、市街化調整区域が多くて開発ができないとなると必然的に吉川市以外に物件を求めることになる。実際に移転してしまった企業もある。将来に向かって工業に力を入れるのであれば、工業ができる地域を作ってもらいたい。また、個人的な意見ではあるが、考えなしに開発が進んでしまった事例も多かったように感じる。将来の方向性を定めた開発が望まれる。</p> <p>また、吉川市は訪れてここにいかなければという場所がない。知名度の発信としてはランドマーク的なものを作って、吉川に住みたい、家を持ちたい、働きたい、子供も吉川から離れない、という良い循環</p>

中原市長	<p>を作れるとよいと思う。美南地区は子育てという切り口でデベロッパ ーが売りに出している。吉川市としても子育てをアピールしてもよい のではないか。</p> <p>漠然とした意見ではあるが、吉川は何かもう一つ足りない。居住地 として吉川を推薦する場合も、企業の立地として吉川を推薦する場合 も、吉川でなければいけない理由が見つからない。</p> <p>吉川としてこれから何をすべきか、力を入れるのは農業なのか、商 業なのか、工業なのか、またはこれらが複合した形式なのか、まずは しっかり決めて、振興条例としてどのような形にするのか考えなけれ ばならない。加えて、経営に重要なのは人なのか、物なのか、金なの か、情報なのか、何が重要かを見極め、吉川に来たらどんなメリット があるのかを考える必要がある。</p> <p>吉川市の人口はあと10年間増えると言われているが、日本全体とし ては減っていく。外からの転入による社会増には期待できないため、 自然増で減少を防ぎたい。大きなビジョンとして、柏瀬委員の意見の とおり、転入者が吉川に定住し、その子供世代も吉川に住むという人 口循環型を目指したい。</p> <p>理想的には、市内企業による再生エネルギープラントによって市の エネルギーをまかなう、広い農地を活かして自給ができる市とする、 など市民のメリットになる施策を進めたい。市内の様々なニーズに応 えるため、特定の分野ではなく全てを推進したい。</p> <p>また、三輪野江のスマートインターチェンジ付近は、工業と農業が 両輪となるモデル地区として整備し、未来像を作りたい。</p> <p>資料2の柏瀬委員の意見に「吉川のテーマパーク化」という文言が あるが、キーワードのひとつになると思う。現在、工場見学ができる 企業を吉川美南駅前の産業ゾーンに誘致したいと考えている。これは 誘致企業だけでなく、既存の企業でも実施できるとよい。社会科見学 等、数社の見学ができるようになるとよい。</p>
------	---

柏瀬委員	<p>団体内でそういった話は出ている。オリエンテーリングのように、数社を巡るツアーがあっても面白いと思うが、各社の企業秘密や、お客さんとの間の秘密保持契約で難しい面がある。</p>
中原市長	<p>秘密保持の面で難しいことは理解している。できる範囲で市も協力したい。各企業少人数の受け入れからでもよいと思う。</p> <p>また、高齢になっても自分の居場所があることは非常に重要。既存の企業だけでなく、リタイアした人材が再度働ける場所を作ることが大事。それができる産業振興条例としたい。</p>
柏瀬委員	<p>ベンチャー企業を集めたSOHOバンクも面白いと思う。仕事をしたい高齢者は、場所があれば起業したいというケースがあるかもしれない。そういう人をターゲットとした情報発信は効果があると思う。</p>
太田委員長	<p>産業振興条例は、先進事例では「基本条例」と位置づけ、個別の施策ではなく、基本的な考え方を条例化することが目的となっている。今の課題がどうかということよりも、将来吉川市がどういった姿になるか、そのとき産業がどういう位置づけになるかを示す条例としたい。まちづくりにおいて、子供たちの教育は大きな課題。教育も教育機関だけでなく、企業の役割も重要である。</p> <p>自分は仕事で過疎地を回るが、悲惨な現状を目にしている。過疎地では町おこしをしないと自分達が生きていけない状況にある。それと比べて、吉川市は恵まれている。市場は近いし、欲しいものが手に入る。逆にそのメリットをいかして、職住近接の推進によって、ワークとライフが一体になるとよい。</p> <p>吉川として進むべく方向としては、吉川で商売してみたいという人を増やす必要があると思う。それはなまずに限ったことではない。今はどこでも仕事ができる時代であり、例えばYouTuberのようなクリエイターを集めるなど、特定の業種を集めるとインパクトのある情報発</p>

<p>中原市長</p>	<p>信につながると思う。</p> <p>一方、自身の事業については、技術者不足と技術の伝承に危機感がある。事業を進めるにあたっては、障がい者福祉にあるように、喜ばれることを喜びとしたい。仕事を通じた社会への貢献感、地域への所属意識が、報酬以上の幸福感につながる。個人としても事業としても同じだと思う。ローカルな循環の中で役に立ちたい。</p> <p>重要なキーワードが多かったように思う。教育、職住近接、技術の継承、情報発信など。またこれまでの議論で、障がい者の視点が抜けていたため、議論に入れていきたい。なお、農業では農福連携として進んでいる事例があるため、障がい者との連携も産業振興条例に含んでいきたい。</p> <p>地域内連携としては、こういった連携があるとよいか。</p>
<p>太田委員長</p>	<p>同じ業種での受発注ではなく、各々異なった業種での連携がよい。中小企業であっても変化が必要であり、10～20年同じ事業を展開していたのでは企業は発展しない。小さな会社でも、連携して多様な事業にチャレンジすることで新しい価値が生まれると思う。</p>
<p>中原市長</p>	<p>例えば、産業フェアでは、出展企業同士交流が生まれたという話も聞く。そういった積み重ねは有効か？</p>
<p>太田委員長</p>	<p>効果があると思う。さらに、吉川ブランドとして、なまずだけでなくもっと広く進めてもよいと思う。例えば、岡崎市では、線香、ポップコーン、サイダーなど同じブランドとしてまとめ、東京に売り出している例がある。その結果、岡崎市内の他の業者にもよい効果が波及している。大きい会社ではこういった連携は難しい。</p>
<p>関根委員</p>	<p>農業では都市近郊型としてやれる強みがある。農業は代々土地を継ぐのが基本であるが、後継者がいないため、農業法人に生産を委託す</p>

<p>中原市長</p>	<p>るのが主流となってきている。しかし、どの会社も手が回らないくらいに規模が大きくなっており、作業性をいかに確保するかと、就農意欲のある人を集めることが農業法人の大きな課題となっている。</p> <p>また、生産者としては消費者と触れ合う機会がすくないので、道の駅などで消費者と交流したい。</p> <p>自身の事業の課題としては、コシヒカリは年々価格が下がってきており、利益創出が難しくなっている。自分の例では、量が取れる品種を栽培し、外食産業に提供するなどの工夫を始めている。埼玉の米の味は決して悪くない。どこのレストランであれば、吉川の米が食べられる、といったアピールの仕方もある。</p> <p>個人的な意見ではあるが、農地は余り気味と感じている。就農者の数を考えると、管理できる農地は限られてしまう。開発においては、そのあたりとの現実的なバランスの取り方が重要かもしれない。</p> <p>販路について、新規就農者は課題とならないか？チャレンジしたいという若い就農者は積極的に支援したい。</p> <p>また、農地の集約については、地域の農業の歴史も考えるとまだ整備に時間がかかると考えている。農地は保水等の機能も有するため、農業の支援と農地保全の支援は別物と考えて進めていきたい。加えて、地産地消として地場産品を学校給食に取り入れることも考えているが、供給の面での課題があると認識している。</p>
<p>田口副委員長</p>	<p>親が農家でない人が農業に参入する割合はどのくらいか？</p>
<p>関根委員</p>	<p>増加傾向にあるものの、全体では決して多くはない。なお自分の会社では50%。自分も農業がやりたくて新規参入した一人。</p>
<p>田口副委員長</p>	<p>まとまった農地を管理する農業法人に就職して会社員として農業をやるという人が増えているということか？</p>

関根委員	その通り。自分もその一人。
中原市長	国が目指す農業の在り方もそのような形式。ただし、農家の農地への思い入れ等もあり、なかなか集約が進まず、効率的な農地の使い方ができないのが現状である。埼玉県としても、地区として取りまとめができた場合の補助金など、推進する施策を打ち出している。
油川補佐	農地の集約にはもう少し時間がかかると考えている。
田口副委員長	農業が法人化して、会社員と同様の働き方ができるとなると、就農者は増えると思う。
油川補佐	先にあった、リタイア世代の取り込みという面でも農業法人が受け皿になれるかもしれない。産業としてのポテンシャルは大きいと考える。
関根委員	現状、委託される農地が増えてしまい、田植えから稲刈りまで休みが取れない日々が続いている。魅力ある職場にするには、働き方の改善も必要である。
太田委員長	外国人の雇用は考えているのか？
関根委員	考えていないわけではないが、進んでいないのが現状。
太田委員長	人材の発掘はどのようにしているのか？
油川補佐	これまでは農業高校等を中心に募集していたが、今は一般の新卒求職者をターゲットとして募集している。食の延長としての農業のPRを推進したいと考えている。

<p>中原市長</p>	<p>国の動向としては農産物の輸出も力を入れている。海外販路もキーワードとしたい。</p>
<p>程田委員</p>	<p>産業振興とは何かを改めて考えてみると、地域の生産力を上げることかと思う。吉川市に限ればあと10年はマーケット拡大するが、いずれは人口減に直面する。この中で目指す産業は、持続可能な自立した地域経済であり、地域循環の経済だと考える。</p> <p>また、行政と民間の協働事業として成り立っている例として、秩父市乾杯条例がある。各団体はこの条例を利用して地酒での乾杯を行っている。行政が作ったものを民間が主導している点でよい手本になると思う。</p> <p>地域ブランドについても議論があるが、乱立によって何のブランドかわからなくなるのは良くない。ブランドには、それを通して見えるイメージ戦略がある。吉川では、なまずの良いイメージを出したブランドにしたい。</p> <p>高齢者の活躍という面では、自身の経験を子供たちに伝えたいという高齢者は多い。高齢者の就労ではなく、子供たちや若手に経験や知識を伝える機会やセミナー、そのための人材バンクがあるとよいのでは。知識は皆が求めるものであり、高齢者の経験知識を次世代に伝承するためにも必要。</p>
<p>中原市長</p>	<p>地域店舗の集積はどういうイメージか？</p>
<p>程田委員</p>	<p>個人商店を集めたモールを集客力のある吉川駅前などに設置するなどを思い描いている。平面でなくてビルを借り切るのでもよいと思う。</p>
<p>中原市長</p>	<p>吉川美南駅周辺の商業エリアに同じような計画があるが、吉川駅のほうがよいか？</p>

程田委員	<p>現状、吉川美南駅はイメージが湧かないので、吉川駅のほうが集まりやすいと思う。</p>
田口副委員長	<p>吉川を面白い街にしたい、というのが私の考え。面白い街であれば、人が集まり、お金も落とすと思う。燕三条では、町工場の技術を集めて1台8万円の扇風機を作って評判になっている。連携を作るには産業フェアのみでは不十分でコーディネータが必要。吉川市の企業には、面白いものを作る技術はある。</p> <p>面白い街、にするには思い切った発想が必要。巨大な人工の築山と人造湖を作り、登山ができる街にしてしまうくらいの思い切った提案も必要ではないか。</p> <p>吉川美南に会社を誘致し、吉川美南に降りる人を作るのも重要。子育てに理解の深い会社を集めるなど、女性が集まる駅にするというのも面白い。</p>
中原市長	<p>大きな公園を作りシンボルとしての「なまず山」を設置することはできるかもしれない。なまずも今は駅前のみだが、町中に「なまず」を置いて見て回れるようにしたい。</p>
田口副委員長	<p>なまずであれば、世界中のなまずを集めた「なまず水族館」を作るのも面白い。</p>
中原市長	<p>実は既に検討したことがある。維持管理の面で困難で手を挙げてくれる経営体が見つからない。アイデアとしてはまだ生きている。</p>
広嶋委員	<p>お金が市内で回ることが重要。イベントを市内の経済循環に活かすべき。</p> <p>自身の事業としては、前向きな新しい分野への進出を助けたいと考えている。併せて後継者問題、事業継承についてお手伝いをしたい。ベッドタウンでは面白くない。人口も増えているので地元の雇用が進</p>

	<p>むとよい。パートさえも集まらないという声もある。企業内保育所等、働きやすい環境を整備して市内雇用を推進すべきと考える。</p>
<p>中原市長</p>	<p>吉川駅前についてはどうか。吉川駅前には公共施設の置き方も考慮の上、ホテル等を含めて再開発したいと考えている。</p>
<p>広嶋委員</p>	<p>吉川には宿泊施設がないため、ホテルはBCPの観点からもぜひ欲しいという声がある。また、工業団地があるので、そこに来る人は吉川に泊まってほしい。現状の駅前にはリスクの低い活用が中心となっており、大きな転換にはエネルギーが必要である。</p>
<p>蓮見委員</p>	<p>人口増加している一方、開発の中心はきよみ野と美南。なかなかそれ以外が見えてこない。人口増加に対して医療施設や保育施設の充実が必要と思う。また、手狭になったことで近隣の市への移転を考えている法人もいるため、流出防止を図る政策があるとよい。</p>
<p>中原市長</p>	<p>企業の流出については、市としてできることを考えたい。</p>
<p>広嶋委員</p>	<p>業績のよい会社ほど、流出する傾向にある。ただ、吉川で従業員を雇用しているため、仕方なく残っているケースが見られる。</p>
<p>中原市長</p>	<p>流出防止には具体的に何が必要なのか探っていきたい。</p>
<p>蓮見委員</p>	<p>吉川市の融資制度として、金利が低いものがあると使いやすい。例えばさいたま市では市独自に多くの融資制度を準備している。</p>
<p>中原市長</p>	<p>資料2にハイテク農業とあるが、これもチャレンジを支援するという意味合いでよいのか。</p>
<p>蓮見委員</p>	<p>その通り。関根委員とは異なった意見となるが、高付加価値の農業</p>

	<p>というのも都市近郊型農業の解となりうると思う。</p>
中原市長	<p>実際に事例があるのか。</p>
蓮見委員	<p>他市ではあるが、具体例がある。</p>
中原市長	<p>関根委員、農業従事者の間では農業生産工程管理（GAP）を進めていく動きはあるか。</p>
関根委員	<p>動きはあるが、ハードルは高く、実状と合っていない部分もあり時間と手間がかかる。今は埼玉県で設定しているS-GAPの取得を目指している。</p>
太田委員長	<p>時間の関係もあり、十分な意見交換ができたため、これで終了したいが、何かご意見があればお願いしたい。</p>
近藤委員	<p>次回の会議の目的は？</p>
中原市長	<p>条例の方向性としては、単なる支援ではなく、農業・工業・商業を通じて吉川市をどのように発展させていくか、そのために事業者と行政がタッグを組んで何ができるか、という視点で進めるのでよいか。それでよければ、今日のキーワードを元に条文案を提示するので、次回はそれについて議論頂きたい。</p>
太田委員長	<p>今の方向でよいか。</p>
全委員	<p>了解した。</p>

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成29年9月6日

署名委員 近藤 旭（自署）

署名委員 柏瀬浩史（自署）